

お か せりがやの丘陵



町田第二中学校
サポートルームだより
2024年 11月号

芸術の秋

例年になく暖かかったり、急に寒くなったりの秋ですが、サポートルームに通ってくる生徒は、いつも元気に授業に参加しています。

秋のサポートルームでは、「協力して相手の意図を読み取る」「相手や登場人物の気持ちを想像する」「自分らしさを表現する」をめあてに芸術を通した授業を行いました。その一部をご紹介します。

「じっくりミレー」

題名にある「ミレー」は画家のジャン＝フランソワ・ミレーと「見て」をかけたもの。じっくりと絵を鑑賞して、その絵の中にある一部を切り取ってその人の気持ちを考える活動です。

各自がたくさん絵の中から一枚を選び、さらに焦点を絞り、芸術家になった気分で人物の気持ちを言葉に表します。気持ちを表出しにくい時は、気持ちカードが助けてくれます。ポツリポツリと言葉にして、どうしてこの気持ちになったのかを説明するという活動です。

皆、感心するくらい上手に「この人はこんな状況で、こんな気持ちでいます」と話し、自分と違った感情をもった人も「ああなるほど」という反応を示しました。

<右の絵の枠内の少女の感情について生徒が想像した少女の感情>

- ・手が「大丈夫？」と問いかけているよう
- ・隣の少女の世話をしている「何で私が」と怒っている様子
- ・舞台に出る前、大丈夫だよねと緊張を共感している様子

～みんな違ってみんないい～



「五七五七七」

今年のNHK大河ドラマ「光る君へ」では紫式部が書いた「源氏物語」に焦点が当てられ、話題となりました。平安時代からある古典詩、言葉あそびとして詠まれた和歌を使って、日本文化に触れるとともに、青春の五七五を作りました。国語の授業と違うのは、自分で言葉を作らないこと。前もって書いてあるカードがランダムに配られ、場に置いてあるカードと交換しながら自分でうまく組み立てていかなければなりません。ある意味難題な作業です。生徒たちはカードをただ組み合わせただけではなく、倒置法を使ったり情景が想像できるように工夫したりしながら、作品とその心を説明しました。以下、一部作品を紹介します。

- ・秘密基地 嵐が来ても 輝いて ギターを弾くと こわくなかった
- ・きまぐれな 教室の隅 さわやかに ギターを弾くと 揺れるカーテン